

平成 28 年度第 4 回公立大学法人滋賀県立大学経営協議会議事録

日時・場所：平成 28 年 12 月 5 日（月）13 時 30 分～15 時 15 分 評議会室

出席者：大田理事長、堺井副理事長、廣川理事、濱崎理事、倉茂理事、上原委員、
小出委員、須江委員、高橋委員、村山委員、渡辺委員

事務局：木村事務局次長、山田総務グループ統括、三和田財務グループ統括、吉村経営企画グループ統括、北村学生・就職支援グループ統括、藤川教務グループ統括、草川地域連携推進グループ統括、中川副参事、兼松主事

議 題

【審議事項】

（1）平成 29 年度予算（案）について

三和田財務グループ統括から、資料に基づき説明があった。

委員からは、県からのサポートが必要であり、他の国公立大学との比較を示して説明する必要があること、県財政に影響を受けない中期計画をもって大学運営を進めていく必要があること、県大ブランド力の強化のため、広告代理店とも連携するとよいのではないかと、また大学のホームページをもっと創造的で魅力のあるものにして社会全体に発信し、パンフレットを含めデザインのいい大学であるとのイメージ作りが必要ではないか、などの意見が出された。審議の結果、原案どおり承認された。

（2）平成 28 年度職員給与の改定等について

山田総務グループ統括から、資料に基づき説明があった。

審議の結果、原案のとおり、本学教職員の給与については滋賀県における条例等の改正状況に応じ改定を行うこととなった。

【報告事項】

（1）COC+の取組状況について

資料に基づき田端COC+推進室長および西岡コーディネーターから報告があった。

その後、COC+の取組状況の報告を踏まえ、意見交換を行った。

資格制度については、出された意見を参考に、理念を明確にして、検討していくこととした。取り組みについては、今後も経営協議会の場で状況を報告していくこととされた。

(主な意見)

●「地域資格制度」の創設について

- ・チャレンジすることには賛成である。
- ・コンテストでの受賞を評価点として取り入れてはどうか。
- ・地域が求める技術者等の育成か、地域活性化のコーディネーターを育成するのか、どこにねらいを定めていくのか明確にする必要があるのではないか。
- ・将来への思いが同じでないとうまくいかないので、学生の考え方、時代が求めるものを汲み取って、資格制度を創設していただければと思う。
- ・地域には活躍されていた元会社経営者の方などもおられる。そういう方とうまく連携すれば、よい知恵がでるのではないか。
- ・必要な取り組みであり、進めていかれるとよいのではないか。京都でも各大学が自治体や企業等と連携して認定機関（機構）を共同で設置し、第3者が資格を認定する仕組み（「地域公共政策士資格制度」）をつくられた。参考にされてはどうか。
- ・学生の能力を評価することは難しい。何かの受賞を評価する仕組みを合せて考える必要があるのではないか。大学だけでなく県とも連携が必要ではないか。

●COC+の取組みについて

- ・県大生が県内就職した場合の支援策があればよいし、寄付金制度を広めることにつなげられるとよいのではないか。
- ・女性活躍のため、ライフプランで、途中退職した場合など、生涯所得がどうなるのかなど、課題をデータとしてきちんと示していく必要があるのではないか。

(2) 理事長選考について

資料に基づき堺井副理事長から報告があった。

(3) 平成28年度中間決算の概要について

資料に基づき三和田財務グループ統括から報告があった。

(4) 平成28年度科研費採択結果に基づく公立大学での本学順位について

資料に基づき吉村経営企画グループ統括から報告があった。

委員から、京都府立大学では法人化以降、基盤Aや基盤Bもねらって全教員が科研費に申請することを目標に努めてきたとの意見があった。

【資料配布】

(1) 冬季における節電対策について

(2) 平成 28 年度卒業・修了予定者の進路・就職内定状況等について

資料に基づき北村学生・就職支援グループ統括から報告があった。

(3) 入学試験の日程について